Lesson 202　発想する！授業

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

地域定住教育

松田 道雄

提案：人口減少に悩む自治体に住む皆さんは、自治体の企画課・地方創生担当課・移住定住担当課に、地域定住教育を提案してみていかがでしょうか？

本号は、前号に引き続き、松田が担当します。今回のテーマは、人口減少対策です。読者皆さんの自治体では、人口減少については課題になっているでしょうか？

本連載執筆者の一人である安西春樹さんが働いている東京都中央区は、湾岸部のタワーマンションに入居者がどんどん増えて、学校も満員で、子どもと若い家族で活気にあふれているといいます。一方で、日本全体を見れば、人口が集中するのは、東京や大都市のみで、多くの地方の自治体は人口減少の悩みに直面しています。

子どもの数はどんどん減り、学校が廃校となり、若い人は出ていき、残っているのは高齢者ばかり、という話はいたるところの地域で聞きます。これに対して、どの自治体も、移住定住促進をはかろうとして、自治体のHPにも記載されていますが、これも移住希望者の「とり合い」のような状況です。

あるまちを訪れた時、そこの地域の代表の方が、「このまま人が減っていけば、ここには、役場職員と郵便局員しかいなくなる」と語ったことばが心に残っています。そのような危機感を持っている地域はたくさんあるのではないでしょうか。地方創生ということばが言われてからしばらくなりますが、予算を投じて事業を行い、成果が出ているという自治体はどれくらいあるでしょうか？

これまで事業として行って成果が出ていればいいのでしょうが、そうでないとすれば、これまで考えてもみなかったこと、これまで実行することもなかったことを探して、試みてみるしかありません。

今回、筆者が提案するのは、そのような視点で、まだ行われていないと思われることを提案します。関心持たれた方は、自治体の企画課や地方創生担当者、移住定住担当者に、この原稿をお渡しいただければ幸いです。

「地域定住教育」ということばをGoogleで検索しても出てきません。ということは、それはまだ行われていないのかもしれません。人口減少している自治体は、どこも、高校・大学進学や就職する年齢の時期に一気に流出しています。この時期、毎年、水道の蛇口が開きっぱなしになっているような状態です。それには何も手をつけずに、雲をつかむようにわずかな移住人口を呼び込もうとするのは、労力の無駄使いと言われるかもしれません。

高校・大学進学や就職時から外に出ていく若者は、みな本当に望んで出ていっているのか。できれば地元に残りたいと思っていた若者はいなかったのか。外に出ていく一番の理由は何なのか。それらの原因や課題について、何か取り組む努力はしようとしなかったか。それらをはっきり把握しなければ、若者の流出に対する具体的な方策は立てられません。そこで、まず、中学生とその保護者の方にアンケートをとります（**資料1・2**）。

問1・問2は、中学生と保護者にほぼ同じ質問です（保護者にも同じように地域生活の満足度や楽しさを尋ねるのがポイントです）。その中で、中学生が「これからもこのまちに住みたい」（問1のケ）と答えた生徒がいれば、その若者が、まちにとって「金の卵」になりますので、地域でちゃんと願いがかなうように育てる努力をすべきでしょう。

そこで問題になるのが、若者の働く場です。その自治体内にちゃんと若者を雇用する場があればいいのでしょうが、それが十分なければ、現在働いている大人の側も、若者をちゃんと（パートや派遣労働ではなく）雇用できるような安定した利益を生み出す事業をつくり出す努力が必要になります。まちのお客さんも少なくなり、売上も減り続けているので、若い人を雇うどころか、自分の代で廃業するつもりだという事業者ばかりでは、若い人の働き場はなくなる一方なので、まちは悪循環です。

若者の雇用の場をつくることと、若者が就職を希望することは表裏一体です。あるまちの眼鏡屋さんの何代目かの息子さんが、地元の人をお客さんにして

【資料1】中学生の皆様へ　　このまちの暮らしのアンケート

あなたについて、○で囲んでください。　男性　女性

1　あなたが現在このまちに住んでいる気持ちについて、以下のあてはまる項目の記号をすべて○で囲んでください。

ア　満足している
イ　どちらかと言えば、満足している
ウ　どちらかと言えば、満足していない
エ　満足していない
オ　楽しい
カ　どちらかと言えば、楽しい
キ　どちらかと言えば、楽しくない
ク　楽しくない
ケ　これからもこのまちに住みたい
コ　このまちから出て、外のまちに住みたい

2　1の気持ちの原因になっていることについて、最も大きな原因と、最も大きな問題について、以下から1つずつ選んで、その記号を書いてください。2つは同じでもかまいません。

ア　行政サービス　、イ　土地柄・風土　、ウ　自然環境　、エ　交通の便　、
オ　病院　、カ　地価・物価　、キ　買い物の便　、ク　行事・イベント　、
ケ　住民・友だち・近所づき合い　、コ　家庭　、サ　仕事　、シ　休日の暮らし　、
ス　災害　、　セ　親の願い　、ソ　まちの将来性、タ　自分自身　、
チ　その他（具体的に　　）

最も大きな原因　（　　）
最も大きな問題　（　　）

3　あなたは、このまちのこれからについて、役場やまちの大人の人たちとともにいっしょに考える場があれば、参加したいと思いますか。以下のどちらかを選び、○で囲んでください。

ア　参加したい。
イ　参加したくない。

ありがとうございました。

いた通常の眼鏡売りをやめて、自分が趣味でしていたサバイバルゲーム用のゴーグルを開発販売してネット通販したら、全国からの新たな顧客ができてサバイバルゲーム界の「聖地」になっているという新聞記事がありました。ネット通販ができるようになったことで、地元の人を顧客にしていたこれまでの商売を、全国に広げることができたという事例はたくさんあります。

私がたまたま出会った方も、そのような事業展開された方でした。人口減少しているまちに住む70代のおじいさんです。それまで大工をしていたけれども、地元の仕事が少なくなったので、趣味で水車をつくり始めて、仲間とHPもつくったら、何と！台湾の大富豪が飛行機とタクシーでやってきて、自分の家の日本庭園に水車をつくってほしいという依頼が来たと言うのです。

【資料２】保護者の皆様へ　　このまちの暮らしのアンケート

あたなについて、以下を〇で囲んでください。
男性　女性　　２０代　３０代　４０代　５０代

1　あなたが現在このまちに住んでいる気持ちについて、以下のあてはまる項目の記号をすべて〇で囲んでください。

ア　満足している
イ　どちらかと言えば、満足している
ウ　どちらかと言えば、満足していない
エ　満足していない
オ　楽しい
カ　どちらかと言えば、楽しい
キ　どちらかと言えば、楽しくない
ク　楽しくない
ケ　これからもこのまちに住みたい
コ　可能であれば、外のまちに住みたい

2　１の気持ちの原因になっていることについて、最も大きな原因と、最も大きな問題について、１つずつ選んでその記号を書いてください。２つは同じでもかまいません。

ア　行政サービス　、イ　土地柄・風土　、ウ　自然環境　、エ　交通の便　、
オ　医療　、カ　地価・物価　、キ　買い物の便　、ク　行事・イベント　、
ケ　住民・友だち・近所づき合い　、コ　家庭　、サ　仕事　、シ　休日の暮らし　、
ス　災害　、　セ　親の願い　、　ソ　まちの将来性、　タ　自分自身　、
チ　その他（具体的に　　）

最も大きな原因　（　　）
最も大きな問題　（　　）

3　あなたは、あなたのお子さんには、このまちに住むことについて、どのように望んでいますか。以下からあてはまる項目の記号を１つ選び、〇で囲んでください。

ア　できれば、このまちに住んでほしい
イ　できれば、このまちから出て、外に住んでほしい
ウ　本人が決めることなので、本人の意志にまかせる

4　まちの人口が減少していることについて、あなたは、どう思っていますか。以下のあてはまる項目の記号を１つ選び、〇で囲んでください。

ア　気にならない。
イ　社会全体の問題なので、しかたがない。
ウ　少しは減少の程度がゆるやかになってほしい。
エ　大きな問題としてあらゆる対策をしてほしい。

5　まちの人口が減少していることへの対策について、あなたは、どのように関わり方をしたいと思いますか。以下のどちらかを選び、〇で囲んでください。

ア　自治体職員にまかせたい。
イ　自分もいっしょに考えたり、関心ある取り組みに参加したい。

ありがとうございました。

「まさか、この歳になって、海外から自分が求められるとは思ってもみなかった。人生は何があるかわからないものだねえ」と語ってくれました。自分の技術を活かしたまま、つくるモノを変えて、HPで国内外に発信することで、関心ある人からどこからでも注文を受けるというビジネス展開の事例です（無理のないデジタル活用の事例とも言えます）。

しかし、日々の仕事に忙しく、また、長年これまでの固定観念にとらわれている農商工業者にとって、新たな事業を考え試行錯誤するゆとりはなかなかありません。そこで、自分たち（中高生）が働ける仕事をつくる（開拓する）目的で、中高生と地元の農商工業者（大人）がいっしょになって新規事業を考える場を「総合的な学習（探究）の時間」に、**「地域定住学習」**として実践的に行えばいいのではないかと考えますが、いかがでしょうか？

「総合的な学習（探究）の時間」や地域学校協働活動は、地域の実情や課題に配慮した学習が行われてもいいことを文部科学省は示していますが、実際にそこまで踏み込んだ学習は、学校の先生だけに頼ってはできません。その理由は、学校の先生の任務と地域自治体の願いは合致しないからです。

中学校の先生の主たる任務は、採用された教科の学習指導であり、自分が教える教科の授業内容を十分理解できているか、テストで生徒が１００点とれることをめざして学習指導します。現在中学生のほとんどは高校に進学しますので、進路指導は高校の進学指導となり、進学指導は、学力テストで平均90点とれる生徒には、その学力の生徒たちが入る高校を薦め、生徒もその高校を志望します。平均60点とる生徒には、その学力の生徒たちが入れる高校を薦め、生徒もその高校を志望します。学力テストによる学力に応じて進学したい高校を選ぶことは、保護者の間でも一般常識になっています。学校の先生にとっては、自分が教えた学習内容の定着とその学力に応じた進学指導が基本であって、生徒が地元に定着してくれることが目的ではありません。

一方、テストで測る学力については、学校で勉強が十分できなかった（テストもよくなかった）人が、社会人になってから活躍している人や、会社の社長になって事業を大きくしている人や、人々の信頼を得ている人もいます（私も知っています）。地域で定住するための力、さらには人生を幸せに生きる力は、おそらく学校の教科のテストがいい点数をとる力とは一致しないでしょう（読者皆さんもそれは納得されるかと思います）。

「総合的な学習（探究）の時間」で、地域課題解決学習の一つとして、自分たちが働くことができる可能性を増やす仕事を考える授業を先生たちが賛同してくれれば、そこに地域のさまざまな職業の大人も参加して、いっしょに考え試行していく時間になります。まさに地域学校協働活動です。

そのような、地域定住をめざす具体的な課題解決型学習は、何も全員を地域定住に向けることではなく、その視野を広げていけば、日本、世界さまざまなところで新たな仕事を多様な人たちとつくり出していく力を、自分たちの地域を題材に、地域の大人の人たちとともに体験学習したという機会になります。

これまでしてきたことで改善や解決ならなければ、これまでしてこなかったことを行ってみるしかありません。その意味で、筆者は、今、人口減少の課題を持つ自治体に、**「まちづくりは3中（ナカ）づくり」**を提案しています。この原稿を書いている日も前日も、オンラインで異なる自治体担当者と談義をしました。

１つ目は、**家の中（ナカ）**。

これまで、とかく、まちづく

りというと、道路をよくするとか、交流センターを建てるなど、家の外のハード整備をさしてきました。しかし、実際にそのまちに住む住民が大半の時間を過ごしているのは、家の外ではなく、家の中です。家の中が居心地よく、楽しく、くつろぐことができれば、そこに住んでいて心地よいと感じるでしょう。子どもを産み育てるのも、家の外ではなく、家の中です。あらためて、そう考えてみると、いかに家の中の暮らしを快くするかに、まちも支援することが、そのまちに住む満足度にもつながることになるのではないでしょうか？今までは、家の中は、個人のプライベートな領域として自治体職員も考えてこなかったと思いますが、子育ては、まさにそのプライベートな空間で行われているのです。

このことに気づいたのは、冬の日照時間が短く、寒くどんよりした天気が続くフィンランドが、幸福度が高いということです。調べてみると、フィンランドの人々は、そのような気候だからこそ、長い冬の時間も家の中で心地よく暮らすための工夫（暖かさを感じるインテリア、コーヒーでくつろぐ時間、家族だんらん、友人を招く食事会、読書や趣味を楽しむことなど）をしているというのです。日本でも、特に雪国地方の人口減少は深刻で、気候性うつの症状も言われ、そこに住む高校生は雪がないところに住みたいと言います。では、雪国の自治体は、これまで、除雪対策ばかりでなく、フィンランドのように、外は雪が降り積もっても、だからこそ家の中での暮らしを一層居心地よくしようとするための支援をしてきたところはあるでしょうか？聞いたことがありません。

2つ目は、**頭の中（ナカ）**。

これは、考え方、物事のとらえ方のことです。不満ばかり言うのではなく、不満を満足に変えようとする気持ちなど、私たちの行動や生き方は、すべては頭の中の考え方次第です。これもこれまで生涯学習としても、どれくらい人々が学んできたかと言えば、あまり聞きません。

3つ目は、**仕事の中身（ナカみ）**。それは、先に述べたように、現状の仕事だけでなく、一人でも若い人をちゃんと雇用できることをめざして、若い人が生き生きと働くことができるように、大人と若者がいっしょに新たな仕事の中身をつくっていくことです。

人口減少に悩む自治体の読者皆さん、これまで考えたことがなかったこと、実行したことがなかったことを、役場の担当者や関係者に働きかけてみませんか？

（まつだ・みちお　人口減少に悩む自治体の地域定住教育を応援します！）
学院大学教授・宮城県名取市
連絡先
：（m_matsuda@shokei.ac.jp）

豊かな体験が青少年を育てる
―学校・地域・家庭が連携・協力―
編／伊藤俊夫　ISBN4-7937-0128-0　2003年9月25日発行　A5判 144頁 価格1650円（本体1500円+税）送料310円
【主な内容】Ⅰ　豊かな体験が人間をつくる／Ⅱ　体験活動を推進する（スポーツ　文化・芸術　家庭教育等）／Ⅲ　もう一つの公共サービス（ＰＴＡ　公民館　青少年教育施設　図書館　博物館　ＮＰＯ　学校支援ボランティア　等）／Ⅳ　知恵と意欲の結晶（総合的な学習の時間　自然体験活動　ボランティア活動の教育力　唱歌と童謡　就労体験　モノづくり　農業体験等）
書店にお申し込みまたは直接日本青年館　TEL 03-6452-9021 FAX 03-6452-9026　までご注文下さい。